

「外見力を磨く・・・ 人は見た目が9割」

(株)パーソナルデザイン 代表取締役
パーソナルプロデューサー

唐澤 理恵 (大垣市出身)



「日本の経営者をもっと ステキに！」が起業の原動力

私の現在の仕事は、パーソナルプロデューサー。政治家の方、会社の社長様がテレビ出演のとき、記者会見、または一般ビジネスパーソンの日常の印象を作り上げる髪型、服装、話し方などの表現力をデザインする仕事です。

会社を立ち上げて10年になります。なぜこの仕事を始めたかについて簡単に触れておきます。大学を卒業してノエビアという化粧品会社に営業として入社。女性を化粧品で美しくして差し上げる仕事でした。訪問販売だったノエビアでは愛用者の

主婦の方が販売代理店として登録し、商売として化粧品販売を始めるお手伝いなどもしていました。そのなかでどんどん売上げを上げる方はどんどん売れる顔になっていく。人は経験で見た目が変わるんだとつくづく感心して見ていました。

営業支店長として成績を上げ続けた私は32歳でノエビア初の女性取締役に抜擢され、社長の代理で経済同友会や経団連など、大手企業の経営者が集う会に出席することが多くなり、そこで日本の社長のみなさんの見た目が非常に没個性で魅力に欠けることに疑問を感じていました。内面は素晴らしい方々ばかりなのにそれが見た目に顕れていない。少なく

とも、テレビや雑誌でみる欧米の経営者の印象はもっと個人的で魅力的ひとりの日本人として、これは放っておけない問題であると感じたことがこの事業を立ち上げるきっかけでした。

2000年、両親や周囲の方の反対を押し切り起業した私ですが、当時は時期尚早。思わしくない業績が続きました。しかし、2004年自民党総裁選の候補者のパーソナルデザインを担当することとなり、それが大きなターニングポイントとなりました。

小泉首相の誕生とともに「クールビズ」が始まり、多くのビジネスマンがスーツからネクタイを削除しただけ、もしくはゴルフウェアのようなスタイルで出社。それを機にパーソナルデザインの依頼が増え始めました。今では大手企業の経営者・部長研修を担当するほどになりましたが、インターネットなどのメディアが社会になってきたことが後押ししたのだと思います。

なぜ見た目が大切なのか？

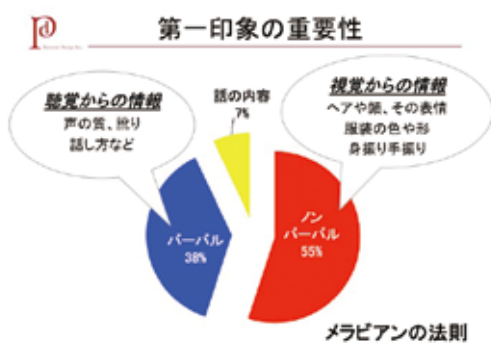
では、なぜ外見が重要なのかを科学的にお話ししておきます。南カリフォルニア大学のアルバート・メラビアン教授の研究結果である「メラビアンの法則」。『人が話をするとき、その話が面白かったかどうかを判別するのがどんな要素に起因しているか？』という研究によると、髪型や

服装、身振り手振りなどの視覚情報が55%、声や話し方などの聴覚情報が38%、話の内容はたったの7%だということです。折角話の内容をしつかり考えたとしても見た目で惹きつけないと人は話を聞いてくれようとしないうことです。それほど見た目の影響は大きいのです。

仕事をしていると面接を受ける機会が多いと思いますが、面接官が候補者の良し悪しを決めるにあたっておおよそ〇か×を決めるのは3分と言われます。

しかし、そのうち第一印象と言われる「好きか嫌いか」のような本能的な判断はたった7秒。それが最終評価には70%も影響するといえます。ほとんど外見のみで決めているといっても過言ではありません。

では、7秒という短い時間に人は相手のどこを観て、どれほど影響されるのか。それは、顔3割、髪型3割、服装3割です。会った瞬間、ほと



んどの人は相手の顔を観ます。顔が重要なのはわかりますが、髪型によって顔の印象が大きく変わる。だから髪型も3割です。そして、服装は形と色。形は襟ぐりが丸いかVかによって顔の形などが変わって見えますし、ウエスト位置が高いか低いかで若々しくもなり、貴族がある印象にもなります。

そして、色。これは心理的に大きく影響します。たとえば、赤い色の部屋にいる場合と青い部屋にいる場合では、どちらが時間的に長く感じるか？。答えは赤い部屋です。10分居たとしてもそれ以上に感じます。実は私たちは赤い色をみていると心臓の鼓動が速くなるのです。そのため気持ちが焦る。

マクドナルドが赤い色をたくさん用いているのはお客様の回転を速くするためだと知ってましたか？ (笑)

顔はコミュニケーションにおける最大の情報源

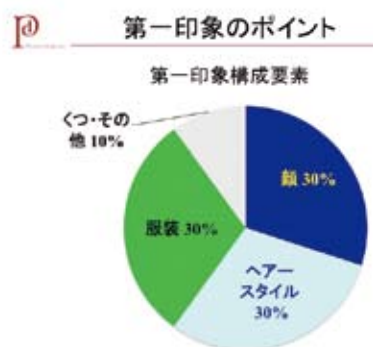
さて、顔について少し詳しくお話します。

ほとんどの人がまず相手の顔を観る。顔には多くの情報が集約されています。

たとえば、赤ちゃんは目の位置が低く、可愛らしい印象を相手に与えます。保護されないと生きていけない赤ちゃんとして必要な顔です。

大人になると咀嚼機能が発達し、顎が長くなり目の位置が高くなる。それによって大人びたしっかりした印象になります。といつても、大人同士でも実は目の低い人、目の位置が高い人がいます。これが個性です。

目の位置が高いとしっかりした印象になりますが、保守的にも見えます。





印象の一方で、危なっかしい印象になります。

目と目の距離が離れている人、逆に目と目の距離が短い人。それぞれ何がしかの印象があるわけです。二重の大きな目、一重の切れ長の目、そのほかに鼻や口の大きさや形によっても印象が変わるのです。いったい自分の顔全体が相手にどんな印象を与えているのか。興味の湧くところですね。

といっても造作だけでなく、私たちには表情があります。これによっても印象が大きく変わります。うれしいときは口角があがり、悲しい時は口角が下がる。あらゆる表情筋肉をその都度使うのです。それが、筋

肉運動となり、顔つきとなっていくます。

ビジネス世界に多い「見下す顔」と「上目づかい」。それぞれ経験によつて作られた顔となります。岐阜から上京したばかりの18歳のころの私の顔と取締役時代の37歳の私の顔、まったく違います。よくみると、18歳は「上目づかい」で、37歳は「見下す顔」です。

40歳にして自分の顔に責任をもつこと

顔は経験によってカメレオンのように変化していきます。

東京大学の原島博教授が職業毎の平均顔をコンピュータグラフィックで作成しています。

すると、銀行員は顔の左右がきれいに対象です。相手には「きちんとした正統派」の印象を与えます。

政治家の平均顔は目の焦点が合わず、相手に対しては「何を考えているかわからない」といつ印象を与えます。

それぞれがその職業として必要な顔に変化していくのかもしれない。

さて、以上のように顔には持つて生まれた役割があり、またそれぞれの個性があります。そして、それが環境によつて変化し、ひとつの自分だけのデザイン（顔つき）を作り上げます。ですから、今現在の環境で必要な顔なのかもしれません。

しかし、環境が変わった場合、どうでしょうか。課長から部長に昇格

した、子会社への移動辞令が降りた。はたまた転職した。これまで作り上げた顔だけでは環境適応が難しい場合こそ、顔の印象を変えて見せてくれる髪型や服装の出番なのです。可愛らしい顔では部長としてなめられる。顔に威厳がありすぎては親しみを感ぜてもらえない。それぞれの悩みを解決してくれる髪型や服装を味方につけ、うまく使うことが外見力を磨くコツにつながるのです。

素の自分を受け入れ磨くこと、パーソナルデザインの重要性

私たちは誰もが平等に年をとります。顔の両脇が下がり、眉毛もタウソ。なんとなく覇気がない印象に見えます。そんなとき、眉尻の下側をカットしてみてください。眉毛に上昇線が出来上がり、若いころの精悍な顔がよみがえるのです。

そのほかにも白髪が気になって染めている人も多いでしょう。しかし、髪の毛だけ黒いというのも違和感です。ましてや50歳以上で髪が茶色というもおかしなものです。みなさんが考える以上に白髪は若々しく見えるおしゃれに有効なのです。ヘアカットでデザインを変え、白髪のヘアがなんとも魅力的で自然な印象にもなり、実は若くみえるものなんです。

さらに、白髪に合わせ明るい色の服装を身にまとうことをお勧めします。きれいなプラチナヘアにお成りの方はベビーピンクのセーターを



合せるとお肌のツヤも健康的に輝き、全体の印象がとも品よく個性が活きてくるのです。紺色のジャケットで引き締めることで精悍さも醸し出されます。

パーソナルデザインとは環境に合わせて、自分らしさをデザインすること。とってつけたように飾り立てた外見ではなく、本来の個性を活かしたナチュラルな魅力をどう醸し出すか。驚くほど若々しくなり、ほとんどの人が目から鱗という体験をするのです。

最後になりますが、自分は今のままで満足という方もいらっしゃると思います。しかし実は外見を変えることは印象を変えるだけではなく、自分自身の心の状態を大きく変える「若返りの妙薬」なのです。若々しく変わった自分の姿を観ることで、心から若々しくなることは医学の世界でも実証されています。

まずは眉毛だけでも、シャツだけでも変えてみる。そんな外見力磨きに多くの先輩の皆様挑戦していただきたいと思います。人間、外見も内面もこれで終わりという限界はないのです。